



遠大勵志

本日は卒業式予行日！

いよいよ明日が卒業式となりました。

3年生のみなさんの首途を祝うためにも、1, 2年生は、本日しっかりとした準備を協力してお願いします。

卒業おめでとう



3年生は、9:20頃には登校しますので、在校生のみなさんには、清掃活動と式場設営を丁寧に思いを込めて行って欲しいと思っています。

12:00からは、礼法指導、校歌・式歌練習、応援歌・エール練習を行い、昼食をはさんで、12:50からは3年生と一緒に全校で、明日の卒業式の予行を実施します。

部活動等でお世話になった3年生と一緒に過ごす残り少ない活動の日です。明日の卒業式を厳粛で盛大な式とするために、意味のある予行としたいものです。

3年生は、11:00から入退場、証書授与、エール練習をした後、昼食をとり、在校生と一緒に12:50から卒業式予行となります。その後、

同窓会長さんが来校し、部活動奨励賞伝達式、同窓会入会式を行います。明日の卒業式を終えれば、伝統ある黒陵同窓会の一員となるのですね。

(昨年度までの同窓生数は21187名)

目に見えないところで準備して下さる方々(受付、駐車場対応、警備、救護、掲示など)がいて、心に残る卒業式ができることにも感謝しながら、今日の予行を明日のためにしっかりと準備したい。

今日はよろしくお願いします。



3年生国公立大学受験者

中・後期試験対策始まる

2月25日(月)~26日(火)に国公立大学前期試験が終了。本校3年生もしっかり受験してきた様子で安心しています。しかし、これで終わりではありません。中期日程が8日(金)、後期日程が12日(火)にありますので、3年生の多くは、前期試験の合格発表で合格を勝ち取ればそこで、中後期の取り組みが終わりになりますが、それまでは、どんな結果になるかわかりませんから、対策を準備し続けなければならないのですね。

3学年団で配布していた資料には、「自分の夢の実現と、岩手の将来を担う自分を成長させるため、出願した試験は、最後までやりきろう!」という3学年長さんの言葉が書かれてありました。私も全く同感です。最後まで是非とも頑張ってください!

ちなみに、昨年度の主な国公立大学後期日程の欠席率は、北海道教育大学(59.8%)、北見工業大学(61.0%)、名寄市立大学(66.6%)、弘前大学(60.3%)、秋田大学(62.1%)、秋田県立大学(69.0%)、岩手大学(56.0%)、岩手県立大学(53.3%)でした。【これは、前期で合格し入学手続きをした受験生は後期試験を受験することができなくなるからですね】

つまり、後期試験の倍率に惑わされることなく、しっかりと着実に準備を積み重ねることができた人は、仮に前期試験が残念な結果であったとしても、後期試験で合格の可能性が高まるということになります。決してあきらめずに頑張ってください!



Hard work pays off

「定めた志」に向けて ひたすら邁進！

2月20日の岩手朝日テレビ「あいつ今何してる？」の中で、福岡県立修猷館高校を卒業し、現在 NASA のジェット推進研究所 (JPL) でシステムズエンジニアとして、火星の土や石を回収して生命の痕跡があるかどうかを調査する火星探査ローバーのシステム設計を担当している石松拓人さん (37) が取り上げられているのを見て、是非みなさんに紹介したいと思った。

漠然と「NASA で働いてみたいな」と思っていた石松さんは、高校2年生の時に見た「アルマゲドン」(人類滅亡の危機を救うために宇宙に飛び立った宇宙飛行士と石油採掘技師の活躍を描いたもの)を見て、NASA の科学者が MIT (マサチューセッツ工科大学) 出身だと知り、NASA に行くなら、MIT への進学だと考えた。高校1年の時の担任にそのことを相談したところ、担任から MIT に直接行くよりもまずは東大に行くべきだ、というアドバイスをもらい、東大理科 I 類へ進学。2年生で航空宇宙工学科へ進んだ。大学院修士課程を終えた24歳のタイミングでアメリカの大学院へ行くことにした。大学院への進学条件は、



共通通験 (GRE) はライティング、言語能力テスト、数学能力テストなど
・大学院での研究目標をまとめたエッセイ
・大学時代の成績
・教授などからの推薦状

共通試験 (GRE) はライティング、言語能力テスト、数学能力テストなど
・大学院での研究目標をまとめたエッセイ
・大学時代の成績
・教授などからの推薦状

苦手な英語を克服し、25歳でマサチューセッツ工科大学大学院へ見事に入学。しかし、ここで初めての挫折を味わう。

あるミッションを設計する授業の中で、5人のチームでミーティングをし、ディスカッションすることになるが、当然すべて英語のためについていくことができず、意見が言えなかった。意見が言えないということは、何も考えていないのと一緒だと思われるが、和を乱さないようにわかったふりをしたり、誰かがジョークを言って笑っているときも全然わからないが、笑顔を作り周りにあわせるなどハンディキャップがあった。しかし、NASA への夢をあきらめることはできないと、議論の内容をチームの仲間

からメールで送ってもらい復習し、仲間達に食らいついていった。そして、NASA のインターンシップに応募するが、門前払い。その後何回も挑戦するが、NASA の高い壁に門前払いされ続けた。しかし決して諦めなかった。27歳の時に大学院の博士課程に進むと、これまでの研究成果が認められ研究室から給料をもらいながら研究を続ける (博士研究員として勤務) ことができる環境になった。あきらめずに MIT で宇宙工学を研究し続けること7年。32歳の時大学院での面接と電話面接を突破し、ついに NASDA ジェット推進研究所への最終試験への挑戦ができることとなった。しかし、永住権を持っていなかったために不採用。諦めきれず永住権を申請。そして、NASA に自分の存在を示すために型破りな論文を発表する。

それは「宇宙にガソリンスタンドは必要か」という論文。当時、NASA は人間を火星に送るときに、直接地球から火星に向けて送るプランを考えていた。しかし、石松さんは、地球から一度月に行き、月の資源をロケットの燃料として使うと、直接火星に行くよりも効率的に行けるのではないかと、つまり月にガソリンスタンドのような燃料補給所を作った方がよいのではないかと、という研究に取り組み、それで大幅にコストカットができることを結論づけ、それを論文にまとめて発表したのだ。

これは NASA に反旗を翻す研究だったので、NASA の本部の人たちに注目され、徹底的にその論文が調べられた。大変なニュースになり、一度 NASA と対立することになったが、門前払いしてきた NASA は石松さんに注目せざるを得ない状況になった。2年かけて2016年1月に永住権を取得するとすぐに、その年の9月に JPL から内定が出た。

長年の夢が叶って NASA を夢に見てから18年かけてついに職員となった。現在は2026年に打ち上げ予定の火星探査機のシステム設計を担っているとのこと。



一度描いた「志」の実現のために、迷うことなく突き進んだ石松さんの歩みの進め方は、みなさんにも参考になるように思います。番組の最後に、「石松さんのこれからの夢は何ですか？」という問いに、石松さんは、「死ぬまでに一度月に行って、地球を見ながら月の氷で作られたビールを飲むことが今の夢。」なかなか、おしゃれですね! (**o**)」